

## 女性協 2021 年 秋の全国代表委員会 開催

国公労連女性協は、9月25日、都内で「2021年秋の全国代表委員会」をオンラインで開催しました。8単組、2ブロック、6県国公からオブザーバーを含め37名が参加し、2021年度運動方針と統一要求、秋季年末闘争方針等を確立しました。

代表委員会では参加者13名から各組織のとりくみや職場実態等の報告が14本ありました。

コロナ禍で運動・とりくみが進まず苦慮している組織が多かったものの、討論では「不妊治療休暇新設などはコロナ禍でも女性協活動があったから勝ち取れた」「今回の制度新設、非常勤職員の産休等の制度改善は職場から喜ばれている。次は職場でどう取りやすい状況を作っていくかが問題。そのためにも学習・周知が大事」「交流集会等については、家族的責任を果たしやすい参加方法にしてもらいたい。」等の意見が出されました。

この間行ってきたオンラインでの会議開催については「オンラインにしても思うように参加者が集まらない」という発言に対して全厚生女性部代表から「女性部会議を毎月開催している。少しでも顔を見て話すこと、続けることでハードルが下がっている。活動を途切らせない事が重要」と意見があるなど、有意義な会議となりました。

以下、各組織からの発言の要約です。

(全医労) 10・11月を母性保護月間に設定し権利ノート等を使って学習会を進める。コロナ緊急実態調査を実施したところ、現場ではマスク・手袋などの制限や看護師は人員不足の中さらに病棟異動などで人手不足となり、心身ともに疲弊している実態が明らかになった。これまでも国民のいのちと健康を守るための医療を担ってきた。地域医療を守るためにも引き続き国立病院の機能強化を求め国会請願署名に取り組む。ご協力を。

(愛知) 愛知ではこれまでレクなどを企画し細々と活動を続けてきたが、コロナで困難になった。役員も代替わりができずにいる。各団体で集会をオンラインで行う場合の目玉は記念講演になると思うが、テーマや講師が似通ってしまう。女性交流集会は大勢参加してもらおうための講演を企画してほしい。



（全経済） 転勤で九州から関東に戻った。九州ではおしゃべり場などができていたが、今は忙しくなかなかできない。組合として何ができるかを考え、折り鶴活動ならできると進めている。

（国土交通労組） 国土交通労組は様々な職場・職種を抱えている。男女問わず育児の悩みなどを聞く中で、一定の改善があり成果として歓迎されている。実態を知らないと今後の要求につなげていくことはできない。そのためにも学習が必要。地理支部で人勧・不妊治療についての学習会をリモートで行った。女性の採用は消極的であり、加入が進んでいないため、中央に女性の執行委員を配置できていない。今後、拡大に向けて取り組みたい。

（全司法） 全司法では毎年、出産調査を実施し、復帰に向けたフォローなどをもしている。また、年1回担当者会議後には交渉も行っている。女性の楽しみはお菓子やおしゃべり。いまはそれができず苦慮している。役員のモチベーションを高めることをやっていきたい。

（全法務） 各種集会在コロナで中止に。オンライン活用も重要だが、集まることも大事。併用で要求集約を活発にやっていきたい。女性部の活性化は、全体の組織活性化につながる。

（全厚生） 交流集会は貴重な話を聞くチャンス。オンラインだと気軽に参加できたと好評だった。女性部は毎月 Zoom を使って少しでも顔を見て会議を行っている。機構賃金は人勧に準ずるが、非常勤の産前産後の有給化に向けて活動していきたい。女性部としては機構本部と初の意見交換会をオンライン併用で実施した。今後は女性部単独のオンライン併用交渉も考えている。活動を途切らせないことを主眼に続けていきたい。

（国土交通労組） 自動車検査の職場には女性も採用されており、シャワー室整備などを交渉で要求し導入させた。しかし、働く環境が厳しいことや、転勤を伴う異動もあることから家庭の両立が困難な状況があるため、要求を具体化するために支部内 89 人の女性からアンケートを取ることを予定している。

（東北ブロック） 東北ブロックでは、女性活動は特に行っていないが、東北全体でこの秋にオンラインでのイベントを考えている。東日本大震災から 10 年たち、復興状況でも 10 年間の差が現れており、岩手・宮城・福島での共同開催で全国に被災地の現状を知らせたいと考えているので是非参加いただきたい。

（神奈川） 女性協が年 3 回の人事院交渉をしているというのは素晴らしいこと。こういった活動を続けてきたからこそ、不妊治療休暇などに結び付いたと思う。女性協はこれからは運動を続けていかなければならない。国公労連の中執に女性がいないということから今後の体制として不安を感じている。

（宮城） 不妊治療休暇の名称の話が出たが、宮城では『両立支援休暇』がいいかなという意見になった。休暇簿に書きやすい名称がいいのか、運用的になのか、どこに基点をおくのか整理したほうが良いと思う。また、各種イベント



などを開催するときは子連れ参加で女性が参加しやすい家族的責任を果たしやすい環境を作っていき、参加できる人が参加しやすい形を作っていくのが必要だと思う。

(中部ブロック) 7月3日にオンラインで開催された九州ブロック女性集会で講演した。今日は九州からの参加者がいないので報告する。集会は全体会と分科会「オンライン座談会」「ピラティス」など良い企画で参加者からも好評だった。今後もジェンダー平等、多様性をもったの運動を大切にしていきたい。

(愛知) 不妊治療休暇のとりかた(イメージとして)は、生理休暇のように規則を書いて取れる形になれば良いと思う。

(全労働) 中央女性委員会を中心に、誰もが働きやすい労働条件の改善を追求したとりくみを進めてきた。感染症拡大の影響により、集合形式で計画していた中央女性委員会はすべてオンラインに、全国女性代表者会議は中止となったが、一つひとつの課題に向き合っ解決を図って行きたい。

なお、今代表委員会で伊吹五月さんが議長を退任し、新議長として全司法出身の根本厚子さん(非専従)が承認されました。



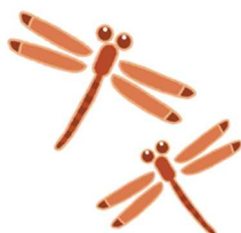
前女性協議長の伊吹さん(右)と  
新女性協議長の根本さん(左)

### 新議長あいさつ

この度女性協議長に選出いただきました、全司法の根本です。

コロナ禍で女性の活動の必要性を強く感じています。これからスタッフを中心に、各単組との連携を大切にオンラインの利点も活用しながら、国公女性の気持ちに寄り添い活動を進めていきたいと思えます。1年間よろしくお願いいたします。

全国の色々な職場や立場の方達のお話が聞けてとても良かったです。私も勇気を出して発言をしようと思ったのですが家からタブレット参加だったので色々な事情もあり結局、勇気も出ず断念してしまいました。(女性)



参加者の声(一部)



初対面でもこんな風に笑いが起こる集まりは、緊張もなく誰でも気軽に参加できるものだと思いますし、発言のハードルもかなり低くなることを改めて確信したところです。(男性オブザーバー)

## アピール

9月25日、私たちは2021年秋の全国代表委員会をオンラインで開催し、各単組、ブロック、県国公からの報告、討論を行い、今年度の活動方針を決定しました。

新型コロナウイルス感染症の大流行が、貧困と格差が拡大する社会を直撃し、女性の非正規雇用労働者は、真っ先に切り捨てられ、「女性や子どもへの暴力」や自殺者の増加、生理の貧困など女性に深刻な打撃を与えています。今こそ、意思決定の場に女性が参画し、ジェンダー平等の視点での政策が求められています。

菅政権は、感染拡大防止に有効な施策を講じることなく、経済優先、自助努力を国民に押し付け、感染拡大により医療のひっ迫が広がる中、財界・大企業の利益を優先した東京五輪を強行しました。感染者急増に拍車がかかり、自宅療養の増加、救えるいのちが救えない事態になっています。国民のいのちとくらし、権利をまもる政治への転換をめざすために、主権者としての権利を行使し、市民と野党の共闘、幅広い共同をひろげましょう。

8月10日、人事院は昨年に引き続き一時金の引き下げを勧告しました。これは、新型コロナへの感染リスクを負いながらも国民のいのちとくらしを守るために、現場の第一線で奮闘している公務労働者の労苦を踏みにじるに等しいものです。一方、不妊治療休暇の新設、非常勤職員の産前・産後休暇の有給化、配偶者出産休暇や育児参加休暇の新設などは、これまで私たちが職場からの声を人事院交渉で訴えてきた運動の成果です。しかし、求め続けてきた非常勤職員の病気休暇の有給化や公募要件の撤廃、安定雇用などについては、まったく応えていません。引き続き、世代や地域、雇用形態にかかわらず、公務職場ではたらくすべての労働者が働きがいを持てる職場環境の実現をめざしていきましょう。

女性活躍とワーク・ライフ・バランスの推進が掲げられ、職場では女性の採用・登用が進んでいます。また、子育てや介護をしながら働き続けるための両立支援制度も少しずつ改善しています。しかし、定員削減がすすみ、職場体制が脆弱な中、コロナ対策や新規業務などで長時間過密労働が蔓延し、気兼ねなく制度を活用することが困難になっています。「増員による体制確保を」の呼声がますます高まっています。誰もがいきいきと安心して仕事も生活も両立できるよう増員による職場体制の拡充、超過勤務の縮減を求める声をあげ続けましょう。

さまざまな矛盾を抱える女性の想いは、職場・社会を変える原動力です。コロナ禍をきっかけに私たちの生活や社会、働き方が変わりましたが、私たちは、集まることができなくても、知恵と工夫で、心をつなぎ、さまざまな課題で要求を集めて、私たち自身でその実現をめざしましょう。明るく元気でいきいきと働き平和で安心して暮らせる社会をつくるために、しなやかに、したたかにあきらめず、なかまの輪を広げていきましょう。さまざまな人たちと悩みや不安を共有しながら、ジェンダー平等の実現で、すべての人権が大切にされる豊かで平和な社会を求めて奮闘しましょう。

2021年9月25日

日本国家公務員労働組合連合会女性協議会 2021年秋の全国代表委員会

## 編集後記

コロナの影響でオンライン会議も多くなり、参加するハードルはだいぶ低くなってきました。でも主催する側（ホスト）になるためには、もう少し学習が必要と痛感しています。リアルで会えるのを待ち望みながらオンラインの活用も模索していきたいと思います。(e)

